令和6年度 認定こども園 高松東幼稚園 自己点検・自己評価（公表シート）

実施期日（令和7年3月25日）

1. 本園の教育・保育目標

○**建学の精神** 「研究的幼稚園」「理想的幼稚園」「非営利的幼稚園」

○**教育・保育目標** 「じょうぶな身体を育てる・豊かな心を育てる・創造する力を育てる」

○**育てたい子ども像**

- ・少しのことで疲れず、友達といっしょにしんぼう強くよく考えて遊ぶ子
- ・きちんとすることとのびのびすることとの両立ができる子
- ・基本的な生活習慣、態度を身に付け、自分に対する自信をもつことができる子

○**保育者の基本的姿勢**

- ・一人ひとりの子どもが“大切にされている”と実感できるような子どもと保育者の信頼関係を構築すること
- ・時代の変化に対応する教育・保育内容を創意し、それを計画的に環境として構成すること
- ・保育者の特性を生かし、協力体制を生かすチーム保育により、よりきめの細かい保育を目指すこと

2. 本年度の重点項目とその設定理由

1. 幼保連携型認定こども園としての運営

- 0～5歳児までの連続性のある教育・保育の充実
- 2・3号認定児の教育・保育課程の実践と改善
- 施設・設備の整備
- 円滑な園運営のための人材確保

（設定理由）幼保連携型認定こども園として実践してきた0～5歳児の連続性のある教育・保育課程を更に充実させる。特に2・3号認定児の運営に関してはまだ課題点が多い。低年齢児も安心・安全に過ごせる施設・設備の整備を更に進めるとともに、長時間保育や土曜保育にも対応するために十分な人員の確保が喫緊の課題となっている。

2. 子育て支援事業の推進

- 様々な保育ニーズへの対応
- 未就園児活動の充実

（設定理由）1号認定児でも長時間の保育や長期休業期間の預かりを希望する家庭が増えている。子育て支援の一環として、未就園児活動の充実も求められている。

3. 教育・保育の質の向上

- 教育・保育課程や環境の見直しと改善
- 教職員の資質向上（園内・外研修の充実）

（設定理由）日々の実践を振り返りながら既存の教育・保育課程や環境を見直し、教育・保育の質を上げられるよう努める。教職員のレベルアップを目指して園内研修を実施し、様々な分野の園外研修にも可能な限り多く参加できるようにする必要がある。

3. 重点項目の取組み状況と自己評価

重点項目	取組み状況	自己評価 (5段階)
0～5歳児までの連続性のある教育・保育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員全体で0～5歳児までの連続性のある教育・保育を意識できるよう「教育及び保育の内容に関する全体的な計画」と「教育課程」を指針として、実践を積み重ねていった。0～2歳児クラスと3～5歳児クラスの保育教諭が十分に話し合う機会をなかなか作れないが、日々の終礼や職員会等で情報共有をしながら、クラス担任間での引き継ぎによって育ちをつなげられるよう努めた。 ・運動会、造形展、お遊戯会等の園行事についても0～5歳児の発達段階を意識しながら取り組み、保護者にも育ちの連続性を感じていただけるように発信した。 	3
2・3号認定児の教育・保育課程の実践と改善	<ul style="list-style-type: none"> ・すみれ組(午後からの2号認定児と1号認定児の一時預かり)の人数は更に増加した。午睡やおやつなどの生活面の安定を図り、その上で安全に過ごしながら各自が好きな遊びを十分に楽しめるように、年少児は午睡時間以外を午前中と同じ保育室で過ごすことにした。各学年の担当保育教諭が、遊びを通して思考力やコミュニケーション能力等の様々な力が育まれるよう日々の活動を計画した。 ・3号認定児においては、保育室内の遊び環境を整え、それぞれに好きな遊びを見つけて楽しむ中で様々な資質・能力が育まれるよう取り組んだ。自分の体を思い通りに動かす力やバランス感覚などを養えるように、ダンスや運動遊びも計画的に取り入れた。 	3
施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・滑りやすかった西館前通路の改修を行った。 ・保護者から要望のあった、南駐車場のラインの引き直しを行った。以前より間隔を広めにとり駐車しやすくした。 ・猛暑対策として、メッシュ日除けスライドテントを1張り増設した。 ・園児の遊びの充実や運動能力の向上を目指し、ボールターゲット遊具一式、二人乗り三輪車3台、小型三輪車6台を購入した。 ・遊具の安全点検を保育用品業者に依頼し、必要な部分は補修していった。 ・通園バスの更新については、バス利用状況の推移等を考慮して何人乗りのものにするかを検討中。 	4
円滑な園運営のための人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ・長時間保育や常勤保育教諭の産・育休期間への対応のため、遅い時間帯に勤務できる非常勤保育教諭を募集しているが、十分な確保はできていない。学生アルバイトを多く採用し、日によっては補うことができた。 ・看護師1名、調理員1名を増員できた。 ・次年度に向けて新卒者を募集していたが、確保することができなかった。 	2

2	様々な保育ニーズへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・入園希望者の多い2歳児の定員を増やした。0～2歳児は年間を通して常に定員を満たしており、クラスに空きができれば、待っている人をその都度受け入れた。 ・共働き家庭の割合が更に多くなり2号認定を希望する保護者が増加し続けていることから、2号認定の定員も増やした。1号認定で一時預かりを毎日利用するケースも多くなり、その他、急遽、延長保育や土曜保育等が必要となった場合も、その都度個別対応し、可能な限り受け入れた。 ・満3歳児クラスも申し込みが多くあったため、2クラス編成にして、最終的には44名受け入れた。 	4
	未就園児活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・月曜日の午前中に園庭開放を行い、毎回多くの未就園児親子の参加があった。 ・毎月1回水曜日の午後に2歳児対象の「たんぼぼ」を実施し、それぞれの季節に応じた活動を体験できるようにした。 ・昨年度は希望者が無く未実施となったTJ教室(次年度入園希望2歳児対象)を、今年度は実施し、毎回10組程度の親子の参加があった。 	3
3	教育・保育課程や環境の見直しと改善	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢でこれまでに実施してきたカリキュラムや園行事について、実施後の振り返りを丁寧に行い、子どもたちにとっても保育者にとっても無理が生じている場合等には内容を再検討した。大事にするべきことを残しながら、今後も精選していく。環境についても子どもたちの実態に合わせて整えていった。 	3
	教職員の資質向上(園内・外研修の充実)	<ul style="list-style-type: none"> ・各月に1～2名の保育教諭が公開保育形式の園内研修を実施した。その他、AEDの使い方についての園内研修を行い、常勤保育教諭20名が参加した。 ・産・育休中の常勤保育教諭以外の全員が、年間を通して何らかの園外研修に参加し資質向上に努めた。 	3

4. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取組み方法
施設・設備の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・第2園庭の整備を更に進める。遊びが充実するよう遊具を増やしていただくだけでなく、トイレの設置など、より使いやすくするための施設整備を検討する。建物の日陰がない分、暑さ対策(日除けテント等の増設)も必要となる。 ・北館1階部分のトイレ、東館1階クッキングルーム(保育教諭の休憩スペース等の確保)の改修を検討する。 ・通園バスの更新を早めに進めていく。
人材の確保	<ul style="list-style-type: none"> ・新卒者を採用できずに新年度を迎えることとなった。より早期に新卒採用活動を開始し、人材確保に努める。中途採用についても募集し続ける。 ・延長保育や土曜保育の希望者増加に対応するために、人員にある程度の余裕を持たさなければならない。フリーで動ける保育教諭をもっと増やし、教職員

	<p>の急な欠勤や土曜保育の振替休み、産休・育休保育教諭の代替などに対応できるようにする必要がある。</p>
<p>教育・保育内容の改善</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各年齢担当の保育教諭一人ひとりが日々の教育・保育を振り返りながら、気付きや反省を次の実践に生かせるよう心掛ける。残した記録をもとに、教育・保育内容を見直し、更なる質の向上を図る。各活動や園行事については、園児にとっても保育者にとっても無理が生じないように考えたい。 ・公開保育形式の園内研修を実施し、教育・保育の質の向上に役立てる。様々な見方による意見を交わし、より良い教育・保育を目指す意識を園全体で高めていかなければならない。そのためにも、保育者間で見合ったり話し合ったりする時間を確保する工夫が必要である。 ・7～10月頃までの期間は暑さに対応したカリキュラムを作成したり行事の開催時期を見直したりする必要がある。
<p>子育て支援事業の拡充</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児親子参加型活動の「たんぼぼ」や次年度入園希望2歳児対象の「TJ教室」を可能な限り実施する。園庭開放は0歳児から参加可としており、入園希望者の施設見学も随時受け付け、保護者からの相談にも応じることを継続する。 ・入園希望の多い1・2歳児の受け入れ定員や3～5歳児の2号認定児の枠を更に増やすことは今後も検討し、地域のニーズに対応したい。 ・施設・設備や人員が整えば、「こども誰でも通園制度」の取り組み実施を検討していく。
<p>地域連携の促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・幼・保・小の合同研修会等に積極的に参加し、近隣の小学校や保育所の先生方と情報交換をしたり意見を交わしたりすることで相互理解を図る。特に5歳児から小学校1年生までの架け橋プログラムをしっかりと意識しながら、地域の幼・保・小が連携できるようにしていきたい。 ・園のホームページだけでなくInstagramでも、未就園児対象の園庭開放の日程等を発信して、多くの人に園のことを知っていただく。地域の方々に園を身近に感じていただけるような発信を心掛ける。 ・可能であれば、地域の高齢者との交流会等を徐々に再開していきたいが、各施設での感染症対策はまだ厳しく行われているので難しいかもしれない。
<p>自己評価・自己点検</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育に関することと園運営の両面からの適切な評価・点検を行う。2～3学期にPTA本部が実施する保護者アンケートの結果も園評価の一つとして参考にし、様々な面の改善に役立てていく。 ・常勤保育教諭全員が一年間の取り組みを振り返って自己評価表を提出し、次年度の目標を立てている。非常勤教職員も含めて、園全体の教育・保育の質の向上を図りたい。 ・県と市からの監査指摘事項の他、消防点検等の指摘事項も教職員に周知し、運営の改善に役立てる。

5. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められた。